

大膳神社薪能

演能能組 真野能楽会

日時 令和四年六月五日(日) 十九時開演
会場 佐渡市竹田 大膳神社能舞台

鷺流狂言

ほんさんぬすびと

盆山盗人 シテ 中山 千代子 アド 水口 みどり

後見 柴田 剛宜

能

シテ 末武 一也

大鼓 安達 忠雄 太鼓 逸見 良一

猩々 ワキ 内田 義昭

小鼓 池田 三保子 笛 高原 十糸子

後見 羽生 丈子

地謡

石塚 直樹 村川 登志郎
中濱 美穂 渡部 渉
知本 静枝 金子 美恵
高野 定子 羽生 茂
佐々木 ミチ 坂口 栄治郎

しようじょう

「猩々」のあらすじ

中国のかね金山(きんざん)の麓の揚子(ようす)に住む高風(こうふう)と呼ぶ親孝行がいました。ある夜不思議な夢を見ます。それは揚子の市に酒を造り売ると裕福になるというものでした。夢のお告げの通りになるとしだいに金持ちになりました。常連客の中にくら酒を飲んでも顔色が少しも変わらない酒豪であつたので高風があまりにも不思議に思い名前を問うと海中に住む猩々と名乗る。そこで高風は酒を壺に満たして薄揚(しんよう)の入江で猩々を待つことにします。秋の月夜、猩々が波の間より現れ友の高風との再会を喜び酒を飲み興に乗じて舞を舞います(中の舞)そして高風の正直な心を褒めいくら酒を汲んでも酒が尽きることのない不思議な酒壺を高風に与えて波の中へと消え去るのです。